

アカシア探険隊

～MI・2007
宮崎県庁潜入の巻～



73回 河野 俊嗣氏
～宮崎県副知事～

中：おーい。そろそろ全国版会報のインタビュー記事を「どげんかせんといかん」時期になったのう。

谷：って、まあメディアに影響されやすい性格ですねえ。なんなら話題の宮崎県庁を見学して、地鶏と焼酎を味わいにいきますか？

中：おー、そりゃエエのう。ほいじゃがインタビュー記事とは関係ないじゃろう。

谷：それがあるんですよ。ワシと同期の人間が宮崎県の副知事に就任したんです。彼にインタビューしに行けばいいじゃないですか。

中：おっしゃー、それいこう！ついでにそのまま東にも会えるかのう？アポとってくれや。

谷：（「そのまんま東」じゃろう。それに東国原知事にそう簡単に会えるわけじゃないじゃん！）あれ、隊長も行くんですか？前は一人で取材して来いって言ってたじゃないですか？

中：いや。こうなったら話は別じゃ。ワシもそのまま東に会うぞ！

谷：（だから「そのまんま東」！、それに副知事に会いに行くんじゃないんかい。）…。

ということで、今回は73回の河野俊嗣（このしゅんじ）さんの登場です。が、その前に。宮崎へは広島西飛行場から向かったわけですが、急に隊長が「サイン色紙が要る！」と騒ぎ出し、コンビニに走らされましたが、どこのコンビニでも色紙は売っていない事が判明。（何故なんですかねえ？誰か教えて。）出発時間が迫る中「何とかせー！」とワガママな隊長。そこでふと思ったのが「サンフレッチェの事務所（広島西飛行場に隣接）に行けばあるかも。」ワラをもつかむ思いでお邪魔すると、そこに田村誠さん（60回）の姿が！事情を



空港に降りたらそこは南国

話すと快く自腹を切って色紙をご提供頂きました。本当にアカシアは有難い!!



中：本日は大変お忙しいところ、お時間を割いていただき有難うございます。

河：ようこそ宮崎へ。よくお越しくださいました。それにしても私なんかでいいんですかねえ。とても光栄に思う反面、立派な先輩方を差し置いて、なんだか気が引けます。

中：まあそう思わずに。早速ですが、在学中の頃の思い出を教えてくださいませんか？

河：そうですね。私は高校から附属に入ったのですが、まずは学校の雰囲気や度肝を抜かれましたね。厳しい受験を経て入学して、緊張していたんですが、自由奔放な空気が漂っている事に衝撃を受けました。また、小・中からの生徒もいるので溶け込むのに苦労するかなと心配していましたが、クラブ活動や体育祭の準備活動をするうちに、すぐに溶け込めましたね。その体育祭ですが、これにも本当にびっくりしました。極力生徒の力で企画・準備・運営する事はもちろん、壮大なスケールや独特の雰囲気には圧倒されました。応援団では結構しごかれましたしね。とにかく自分が持っていた「進学校」というイメージが跡形も無く吹っ飛びましたよ。

谷：クラブはサッカー班でしたよね。
河：小さい頃からサッカーが好きだったんですが、残念なことに中学にはサッカー部がありませんでした。高校に入って、いよいよ伝統のサッカー班でサッカーが出来ると楽しみにしていたのですが、実は入学当初は入っていませんでした。同学年の友野芳治君に相談したところ、ちょっとタイミングを間違った方がいいというアドバイスを受けてました。というのも、当時の3年生（71回学年）は非常に強かったんです。全国大会出場が有望視されていた関係で練習が非常に厳しく、県からの通学組だった私は、学校の雰囲気に



県庁は人気の観光スポットで大勢の人が訪れる



P r o f i l e

昭和39年9月8日広島県呉市生まれ、昭和63年3月東京大学法学部卒業、同年4月自治省入省、同年7月宮城県総務部地方課、平成元年8月宮城県総務部財政課、2年6月人事院長期在外研修（ハーバード・ロー・スクール卒業）、5年4月春日井市企画調整部長、7年4月国土庁土地局土地政策課課長補佐、9年4月埼玉県総合政策部市町村課長、10年4月埼玉県総合政策部まちづくり支援課長、11年4月埼玉県総務部財政課長、平成13年4月総務省自治行政局自治政策課課長補佐、15年4月総務省自治行政局自治政策課理事官、同年7月総務省自治財政局地方債課理事官、16年4月総務省自治税務局企画課税務企画官、17年4月宮崎県総務部長、19年2月宮崎県副知事

慣れてからにした方が良いということ。で、当初は新人戦に人数が足りないバスケット班で試合に出たりしてました。蓼原太君には「強肩で体つきもいい。野球班に入らないか。」と誘われましたが、やっぱりサッカーが好きでしたので、1年の秋頃に入りました。

中：高校卒業後は東京大学に進学され、卒業後、当時の自治省（現総務省）に入省されたわけですが。

河：当初は外交官になりたかったんです。附属に入って、「世の中には様々な人間がいるなあ」と再認識したのですが、それこそ世界中のいろんな人々と付き合い、幅広く経験を積み、自分を高めて日本の役に立ちたいと思っていた訳です。それが、自治省に入った大学サッカー部の先輩に洗脳されてあっさり転向しました。先輩曰く「外交も重要である。しかし足元の内政を固めることもそれ以上に重要だ。」と。それぞれの地域を活性化させる事で日本全体を元気にするという仕事に、とても魅力を感じました。

中：自治関係の国家公務員の仕事について教えてくださいませんか？

河：自治省と他省の違いは、4月に入省したら7月には早速地方自治体に出向して現場勤務を命ぜられる事です。そして地方の勤務と東京での本省勤務を繰り返す、大体半々の割合になります。私の場合も、宮崎県は4箇所目の地方勤務になります。最初はヒラで地方の現場に出されるのですが、その次

以降は課長、部長といった役付で向出します。それが結構な人間修行になります。年上の自治体職員を部下に持って仕事をする場面も当然あるわけですから。その地方の歴史・風土・県民性などに十分配慮しながら仕事を進めないといけません。先の先輩が言った「自治省は人間道場だ。」という事を身をもって感じています。とにかく現場重視、現場主義の仕事であることは間違いありません。仕事柄当たり前なんでしょうが、地方の事を知らず、中央の論理だけで物事を進めようとする一部の役人や識者の方々と戦うこともありますよ。

谷：昨年末に広島で73回同期会がありました。その時に数ヶ月後に副知事に、そして宮崎がこんなに注目されるなんて想像出来ましたか？（当時は宮崎県総務部長）

河：いやいや。まさか、まさかですよ。それに当時の心境としては、とても先の事を考えるような余裕は無かったです。11月に官製談合事件が発覚して、福島・和歌山・宮崎と「ダンゴウ三兄弟」と言われました。知事、出納長が逮捕されて、県庁をリードする人間が居なくなったわけですから、それこそ大騒ぎ。前知事の辞任で知事選になりましたが、現知事も、最初は泡沫候補と報道されていました。タレント出身の



この後、県知事とまさかの御対面が…

首長を生んだ東京や大阪とは違うぞという見方が大半でした。それが選挙戦中盤あたりから「そのまんま東がいいぞ。」と言う声上がり始め、それが一気になだれを打って広まった感じでした。「宮崎をどげんかせんといかん」などと宮崎弁を使い、タレントの応援は一切頼まず、北野事務所を辞めて退路を断った姿や、分かり易くてきちんとしたマニフェストを作った事、そしてさすがにスピーチ、演説が上手いわけです。それらの事からガッチリ県民の心を掴んだようですね。

中：選挙後、副知事になる事は予想されましたか？

河：これも青天の霹靂でした。当初は対立候補だった方に就任を要請する方

針を表明されておりました。ですから、各方面の声を受けて「仮にお願いしたら受けてくれるか？」と内々の打診を受けてからは、緊張しましたね。マスコミにも追いかけて。その後「あなたに決めたからお願いします。」と言われた時は「大変な事になる」と感じました。それから議会で選任同意をいただくまでは長かったです。

☆☆ っと、突然知事乱入!! ☆☆

東：なんか私の話をされているみたいですね。

河：実は、私の出身高校の機関紙の全国版の取材に広島から来られてまして。

東：おーそれは、それは。遠いところをよくいらっしやいました。「ようこそ宮崎へ」です。広島といえば、カーブやサンフレッチェさんには長年キャンプ地として宮崎を使って頂いてお世話になっています。

河：そのカーブのオーナー（松田元氏：59回）や総務部長（関谷康氏：60回）も同窓ですし、サンフレッチェのGM（高田豊治氏：56回）やスタッフにも（谷本罔之氏：53回、田村誠氏：60回、織田秀和氏：70回）、同窓がたくさんいるんですよ。

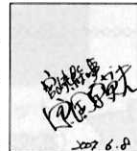
東：へー。世の中、私の額みたいに広いようで、狭いもんですね。これをご縁に、より一層ごひいきにお願いしますよ。ところで今日はお泊りですか？

中：いや観光ではないので、日帰りです。ですが改めてまた来たいです。

東：そうですか。それは残念。では、たくさんお土産を買って頂いて、宮崎にしっかりお金を落として帰ってくださいね。ただし道端に落としちゃダメですよ。(笑)

谷：(隊長につつかれ、ソーっと色紙を差し出す)あのう…

東：ハイハイ。OKですよ。(サラサラサラ)では仕事がありますので。ごゆっくりなさってくださいねー。



サイン入色紙

☆☆ っと、突然知事退室!! ☆☆



左から河野俊嗣氏(73回)、東国原英夫知事、谷口公啓(73回)、中本泰弘(65回)

谷：いや〜。びっくりした。

河：「宮崎のセールスマン」を自認されるぐらいだから、非常に気さくな方ですよ。

中：話は変わって、アカシアのメンバーへのメッセージをお願いします。

河：メンバーの皆さんは各界で活躍されていますが、それがアカシアという目に見えない糸で繋がっている事を強く感じます。その一人でいられる事をとても有難く思います。これまで多くの先輩にお世話になりました。これからも、この連帯感を大切にしていきたいと思っておりますので、皆様宜しくお願い致します。

谷：現役生徒諸君にもメッセージをお願いします。

河：同窓会というものは卒業して時間が経つほど懐かしく感じるものですね。特にアカシア会の場合は、組織もしっかりしていますし、それが顕著だと思います。将来のアカシア会のメンバーとして、誇りを持って学校生活をエンジョイし、そして友人をたくさん作って欲しいですね。「自由・自主・自律」精神の本当の意味を考えながら。

中：本日はお忙しいところ、有難うございました。



谷：東国原知事は、実際どうなん？

河：最初はどうなることかと心配したけど、知事は頭のいい方だし、真剣に仕事に取り組んでおられるよ。そんな知事の代わりは誰にも務まらないね。副知事だから知事の代理で会議、会合等に出る機会も多いけど、そんな時に痛感する。それを逆手に取って「副知事の河野です。(知事じゃなく)皆さんをがっかりさせてすみませんネ。」って挨拶を始めると結構受けるよ。知事の勢いを感じるね。でも、知事と常々話しているのは「今はブーム。ブームは必ず去るから、その時どれだけ踏ん張れるかがポイント。」って事。

谷：へー。しっかりしとるのう。大変じゃろうが頑張ってくれや。

河：有難う。帰りに「完熟マンゴー」買うのを忘れるなよ。

谷：副知事さんもしっかりしとるわい。

<読者の皆様。いつもながら一部フィクションが含まれていることをお忘れなく。>

中本泰弘(65回)

谷口公啓(73回)